

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話 I) General English I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	エアライン科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

シェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	イントロダクションとプレテスト。初対面のあいさつ～お別れまでの会話が出来るようになる
2回目	自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答えが出来るようになる
3回目	ちょっとした世間話の会話が出来るようになる
4回目	好き・嫌い等の好みについての会話が出来るようになる
5回目	意見を尋ねる/意見を述べる。お誘いを受けた際の返答が出来るようになる。
6回目	家族について話したり尋ねることが出来るようになる
7回目	性格について話すことが出来るようになる
8回目	人を褒める&褒められた際の会話表現。(衣服など)着ているものに関して述べる事が出来るようになる
9回目	日々の習慣について話したり尋ねることが出来るようになる
10回目	追加質問について学び、実践できるようになる
11回目	順序について話したり尋ねることが出来るようになる
12回目	総復習(筆記小テスト)
13回目	総復習(ロールプレイングテスト)
14回目	前期授業内容での期末テスト
15回目	前期期末テストの解説

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。

**受講生への
メッセージ**

【使用教科書・教材・参考書】

使用教本: Speak Now1

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話 II) General English II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	エアライン科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

シェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	過去の出来事について話す、質問することが、出来るようになる
2回目	場所を尋ねる、説明することが出来るようになる
3回目	道案内をする、尋ねることが出来るようになる
4回目	料金について尋ねる、説明するが出来るようになる
5回目	頻度について質問する、答えることが出来るようになる
6回目	アイテムの特徴を説明するが出来るようになる
7回目	食べ物の量について話す、尋ねることが出来るようになる
8回目	必要性に関して話す、尋ねることが出来るようになる
9回目	食生活について話す、説明することが出来るようになる
10回目	食べ物について説明する、尋ねることが出来るようになる
11回目	過去の出来事について話す、質問する。ある出来事に対してのリアクションや返答の仕方を学び、実践することが出来るようになる
12回目	週末や未来の予定について話すことが出来るようになる
13回目	総復習(小テスト)
14回目	後期授業内容での期末テスト
15回目	後期期末テストの解説

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。

**受講生への
メッセージ**

【使用教科書・教材・参考書】

使用教本: Speak Now I

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラム I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Career Program I	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
【授業の学習内容】							
ホスピタリティ業界(特にエアライン業界)への就職と就業に関して、社会人として求められる姿勢と資質を養う。 ※最初の15分:英単語や漢字、一般常識の小テスト/最後の10分:清掃(指示だしのリーダーは持ち回り)							
【到達目標】							
クラスを安心安全の場として作り、エアライン業界を目指す人材としての基礎的なマインドを養うことができる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		【オリエンテーション】連絡事項、自己紹介、学校での基本ルールに説明と共有
2回目		【目標設定】個人の目標設定(ワークシート・発表)、クラスの目標とルールを決める
3回目		【町内フォトコンテスト】チームで指定されたテーマに沿った写真を撮影、クラスメイトとの相互理解を深め、チームワークを養うことができる。
4回目		【ライフチャート】スタッフのライフチャートを参考に、自分のライフチャートを完成させることができる。
5回目		【セルフハンディキャッピング】テストで自分の“セルフハンディキャッピング度”を計り、把握することができる。また、不安を解消するために効果的なことを話し合い共有することができる。
6回目		【業界研究①】興味のある業界の企業について調べてまとめ、発表することができる。
7回目		【スピーチの基本作法】自分経験、効果的に意見を伝えるための基本事項を学び、実践することができる。
8回目		●コミュニケーションスキルアップ検定対策
9回目		●コミュニケーションスキルアップ検定対策
10回目		●コミュニケーションスキルアップ検定模擬試験
11回目		●コミュニケーションスキルアップ検定試験
12回目		【20の質問】目的に達するための論理的思考力を養うことができる。
13回目		【業界研究②】興味のある業界の企業について調べてまとめ、発表することができる。
14回目		【ディスカッション】テーマに沿ってディスカッションを行い、チームの意見を一つにまとめることができる。
15回目		【ディベート】テーマに沿ってディベートを行い、自分の主張を相手に納得させることができる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・出席率
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムⅡ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Career Program Ⅱ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
【授業の学習内容】							
ヒューマンズスキルの一つである、コミュニケーション能力をゲームなどを通して体感して、学習する。							
【到達目標】							
人間関係に必要なコミュニケーション能力を習得することができる。							

授業計画・内容	
1回目	時間管理と挨拶・掃除＆プロの職業人を目指すにあたっての理解を深めることができる。
2回目	自己紹介:名前・出身地・趣味【はまっていること】 自己開示のきっかけづくりをすることができる。
3回目	サポートアンケートと、「夢を叶えるには」について、理解を深めることができる。
4回目	コミュニケーションの基本を学び、説明ができるようになる。
5回目	接遇基礎の重要な点を説明ができ、実践できる。
6回目	敬語の重要性を学び、敬語の種類を理解することができる。
7回目	「あ行トーク」で、相手を理解しようとする意欲を養い、最初から簡単に諦めないことの大切さを理解することができる。
8回目	「サイレントトーク」で、頭で理解するのではなく、感覚的に分かろうとする気持ちを養うことができる。
9回目	「伝達トレーニング」で、話し言葉だけでメッセージを正確に共有するための条件を理解して、実践できる。
10回目	「ジェスチャーコミュニケーション」で、メッセージの送り手と受け手に必要な気持ちを理解して、実践できる。
11回目	「相槌・繰り返し・傾聴の技法」で、どのように反応を示せば、聴く側の熱意を効果的に伝えることができるのかを学習します。
12回目	「要約の技法」で、自身が話を理解できているかの確認と、要約して返すことによって、問題を整理してあげることができることを学び、実践できる。
13回目	「共感の技法」で、相手の気持ちを、その種類と程度まで正確に把握し、それを自然な言葉で表現して相手に返すことができるようになる。
14回目	「協力ゲーム」で、チームで仕事するときの協力の重要性を知り、自分が完成してもチームのメンバー全員が完成しないと課題が達成できないことを体験して、共通の目標にむかっていかに行動するかを学び、理解できる。
15回目	前期の振り返りと後期に向けて 後期への新たな目標を立てることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「レポート提出率」とする。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメントベーシック I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Core Management Basic I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科名	エアライン				4	曜日/時限	
【担当教員・実務者経験】							
<p>ブライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>脳の仕組みを理解し、コミュニケーション力を鍛える。</p>							
【到達目標】							
<p>コアマネジメントにおける自分のパターン・気質フォートロジー®を知ることで、周りの人と円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。また、他者との折衝において、ストレスを溜めにくいコミュニケーション技法を習得することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	コアマネジメントにおける「学習の4段階」を理解し、本単元における学習の仕方を習得することができる。
2回目	気質(フォートロジー®)テスト診断を行い、自分の現状の気質を理解することができる。
3回目	診断テスト結果に基づき、自分の現状の気質を分析することができる。
4回目	現状の状態から望む未来に行くにはどのような思考が必要かを理解することができる。
5回目	アウトカムの設定①: 目標設定の意義を理解することができる。
6回目	アウトカムの設定②: 目標の作り方を習得することができる。
7回目	気質を利用した実際のコミュニケーションを体験し、その流れの理解することができる。
8回目	気質「春」「夏」におけるコミュニケーション方法の特性を理解することができる。
9回目	気質「秋」「冬」におけるコミュニケーション方法の特性を理解することができる。
10回目	キャリブレーションとラポール①: 気質を判断するために、どのように他者を観察すべきかを習得することができる。
11回目	キャリブレーションとラポール②: 他者と信頼関係を創るまでのスキルを習得することができる。
12回目	言語のペーシングを習得することができる。
13回目	態度のペーシングを習得することができる。
14回目	肯定の場合、否定の場合に分けた人の行動形態を理解することができる。
15回目	自分自身がどのような行動形態をとるのか理解することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「制作課題の提出率および完成度」とする。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
使用教本: コア・マネジメント・ベーシック テキスト	

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメントベーシックⅡ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Core Management Basic Ⅱ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	後期
学科名	エアライン科					曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。							
【授業の学習内容】							
脳の仕組みを理解し、コミュニケーション力を鍛える。							
【到達目標】							
コアマネジメントにおける自分のパターン・気質フォートロジー®を知ることで、周りの人と円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。また、他者との折衝において、ストレスを溜めにくいコミュニケーション技法を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	気質における各表象系システム(見方・聴き方・感じ方、記憶の仕方、発信の仕方)を理解することができる。
2回目	気質における表象系述語: 気質によって同じ状況で選び取る述語がどのように違うかを理解することができる。
3回目	視線解析①: 目の動きを解析する方法を習得することが出来る。
4回目	視線解析②: 目の動きから他者の思考パターンを読み取ることができるようになる。
5回目	自分の気質におけるパーソナリティを理解することができる。
6回目	自分の気質における弱点を理解し、改善することができる。
7回目	サブモダリティ: 同じ物事でも、捉え方によって異なる体験となることを理解することができる。
8回目	マッチング: 気質「春」における、それぞれの気質の他者との相性、効果的なコミュニケーション方法を理解することができる。
9回目	マッチング: 気質「夏」における、それぞれの気質の他者との相性、効果的なコミュニケーション方法を理解することができる。
10回目	マッチング: 気質「秋」における、それぞれの気質の他者との相性、効果的なコミュニケーション方法を理解することができる。
11回目	マッチング: 気質「冬」における、それぞれの気質の他者との相性、効果的なコミュニケーション方法を理解することができる。
12回目	アンカーリング: 思い込みの定着とは何かを理解し、効果的な利用法を習得することができる。
13回目	リフレーミング: より円滑なコミュニケーションを図るため、意図的に視点を変えるスキルを習得することができる。
14回目	気質によって課題に取り組む対応力が違うことを理解することができる。
15回目	自分の気質における、効果的な課題への対応方法・解決方法を習得することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「制作課題の提出率および完成度」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
使用教本: コア・マネジメント・ベーシック テキスト	

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティング I) Business Computing I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経歴】							
航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		インターネットガイダンス(ITリテラシーの概要・理解度テスト・COMメールの使用方法)
2回目		Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①
3回目		Word② 入力練習・文書作成・編集② (効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる)
4回目		Word③ 入力練習・表の作成① (表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる)
5回目		Word④ 入力練習・印刷・図形(地図) (ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れる)
6回目		Word⑤ 入力練習・便利な機能 (検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる)
7回目		Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成 (ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる)
8回目		Word⑦ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
9回目		Word⑧ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
10回目		Word⑨ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
11回目		Word⑩ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
12回目		PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。画面構成)
13回目		PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ)
14回目		試験週 実技試験(入力テスト/Wordの文書作成)
15回目		振り返り・PowerPoint③ 表やグラフの利用(プレゼンテーション可視化の必要性について知り、見栄えの良いスライドを作れるようになる)

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験80% ・前期提出物 20%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】
30時間でマスターWord & Excel2010

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティングⅡ) Business computingⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	

【担当教員・実務者経験】

航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。

【授業の学習内容】

情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。

【到達目標】

職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		PowerPoint④ 課題発表と準備(課題作成にあたり、デザインシートの作成やデータ収集が出来るようになる)
2回目		PowerPoint⑤ 課題作成と発表準備(効率よく課題作成や発表準備に取り組むことが出来るようになる)
3回目		PowerPoint⑥ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
4回目		PowerPoint⑦ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
5回目		PowerPoint⑧ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
6回目		Excel① 基本操作・データ入力・表の作成編集 (Excelの基本操作を知り、効率的な表編集が出来るようになる)
7回目		Excel② 数式と関数Ⅰ (Excelの数式や関数を扱えるようになり、業務で応用出来るようになる)
8回目		Excel③ 表の編集・条件付き書式 (見栄えの良い表作成と条件付き書式を使えるようになり、効率の良い業務に応用出来るようになる)
9回目		Excel④ グラフ作成・練習問題実施 (用途に合わせて、グラフを作成出来るようになる。また、練習問題を実施し、実力養成を図る)
10回目		Excel⑤ 印刷方法、シート操作、関数Ⅱ (印刷方法、シート間の入力方法、関数Ⅱを実施し、業務での応用が出来るようになる)
11回目		Excel⑥ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
12回目		Excel⑦ データベース機能 (データベース機能を学ぶ事により、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
13回目		試験週 実技試験(表作成・関数・グラフ・データベース機能を使用したもの)
14回目		振り返り 試験を振り返る事により、理解出来ていなかった点などを、クリアにする事により、スキルを高めよりExcelを利用出来るようになる。
15回目		Excel⑧ 総合演習 (Excelの機能を利用して、演習問題に取り組む事により、ビジネス場面での応用が出来るようになる)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・後期試験 実技試験80%
・後期提出物 20%

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

30時間でマスターWord&Excel2010
30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2010

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (書道 I) Japanese calligraphy I	必修 選択	選択	年次	1	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義、実習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

1983年より書家としての活動をはじめ。日展作家。他、外部展(読売展:理事、全関西展:招待、日本の書展:招待)等に出品中。

【授業の学習内容】

硬筆では、日常文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得することで文章全体の印象をよくなり、そのうえで漢字の基本原則を学ぶ。
毛筆では、芳名帳、祝儀袋、招待状のあて名書き・返信ハガキにおける書のマナーを学び、心を尽くす。毛筆の表現を生かしアイデアを駆使してウエルカムボードを制作する。
人を思いやり文字を丁寧に書くことや道具を丁寧に扱うことを通して、自身の日常生活を見つめ直し、おもてなしやホスピタリティの精神を理解する一助とする。

【到達目標】

書の基本を身につけることができる。
書を通して、人やものに丁寧に接する姿勢を身につけ、日常生活においても生かせるようになる。
書における慶用のマナーを身につけたうえで、心を込めて書くことで、最高のおもてなしができるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション シラバスの確認。書道について。硬筆文字診断。
2回目		(実習①) 硬筆 名前・住所が読みやすく書けるようになる。 毛筆 基本点画が書けるようになる。
3回目		(実習②) 硬筆 ひらがなに共通している線や、ひらがな特有の線が書けるようになる。 毛筆 基本点画を学び、生き生きとした線が書けるようになる。
4回目		(実習③) 硬筆 ひらがなの字源を知り、気脈を意識して書けるようになる。 毛筆 実習①の硬筆を生かし、小筆で名前と住所が書けるようになる。
5回目		(実習④) 硬筆 ひらがな46字をマスターすることで、実習①～のウエルカムボードの制作に生かせるようになる。毛筆 小筆で芳名帳を意識して書けるようになる。
6回目		(実習⑤) 硬筆 カタカナの字源を知ることで、整った字が書けるようになる。 毛筆 結婚式受付のロール・プレイングで芳名帳に記帳する。
7回目		(実習⑥) 硬筆 カタカナを通して漢字の要素が書けるようになる。 毛筆 祝儀袋のマナー理解して、小筆で結婚式の表書きを心を尽くして書けるようになる。
8回目		(実習⑦) 硬筆 あて名書きやウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 祝儀袋の中袋に記す金額を漢数字の大字で書けるようになる。
9回目		(実習⑧) 硬筆 あて名書きやウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 小筆で実際にお友達に渡す祝儀袋・中袋を完成させる。
10回目		(実習⑨) 硬筆 筆ペンで結婚式の招待状のあて名書き、ペン字で返信ハガキを心を込めて書けるようになる。
11回目		(実習⑩) 硬筆 実際に筆ペンで結婚式の招待状のあて名書き、ペン字で返信ハガキを書く。 毛筆 ウエルカムボードの原案を考える。
12回目		(実習⑪) 硬筆 ウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 ウエルカムボードに書く文字や言葉の練習をする。
13回目		(実習⑫) 硬筆 ウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 前回の実習を踏まえウエルカムボードに書く文字や言葉を消書する。
14回目		(実習⑬) 硬筆 ウエルカムボードに生かせるように漢字の原則を学ぶ。 毛筆 心を込めてウエルカムボードを完成させる。
15回目		(実習⑭) 硬筆 オリエンテーションの文字診断を再度する。制作したウエルカムボードについてプレゼンテーションを行う。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・実習⑤、⑧、⑩、⑬への取り組みと作品の提出状況の合計を100点とし、40%に換算する。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (茶道Ⅰ) tea ceremony I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習実習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
大学時に師に出会い入門。2009年専任講師取得。カルチャースクール講師アシスタントとして活動。							
【授業の学習内容】							
茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。							
【到達目標】							
茶道を学ぶことによってお辞儀、襦の掛け開け、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション: 茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。
2回目		和室での立ち振る舞い①: お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を学ぶ。
3回目		和室での立ち振る舞い②: 立ち方、歩き方、襦の掛け方、お軸の拝見の方法を学ぶ。
4回目		和室での立ち振る舞い③: 水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を学ぶ。
5回目		割稽古①: 袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い箸と茶杓を清める。
6回目		割稽古②: 茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。
7回目		割稽古③: 茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までをとおして学ぶ。
8回目		盆略点前①: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。
9回目		盆略点前②: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。
10回目		盆略点前③: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまで通して学ぶ
11回目		盆略点前④: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。
12回目		盆略点前⑤: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。
13回目		前期試験: 和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。
14回目		前期試験: 和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。一部、筆記試験を行う。
15回目		振り返り: 試験の解説後、初回授業からの振り返りを行いお互いに心をこめてお茶を点てる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎筆記試験10点 + 実技試験90点
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	業界研究 (企業研究 I) Business Reserch I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経歴】							
【授業の学習内容】							
企業様より取り組み課題をいただき、自発的に調査、リサーチを行ったうえでチームワーク力を高めながらプランニング・プレゼンテーションを行う。							
【到達目標】							
企業様からの課題をしっかりと理解した上で、グループで課題に取り組み、プレゼンテーションを行うことができる。							

回数	授業計画・内容
1回目	企業プロジェクトの目的、心構えについて学ぶ。事前準備として、自己紹介を含むグループ分けを行うことができる。
2回目	企業様から課題発表。課題に対して取り組まなければならない事項を理解することができる。チーム発表。
3回目	プレゼンテーション発表までのスケジュールを組むことができる。 取り組み方について考えることができる。
4回目	課題に対してリサーチすることができる①
5回目	課題に対してリサーチすることができる②
6回目	課題に対してリサーチすることができる③
7回目	中間発表：企業様に対し、課題に対する取り組みの進捗状況を報告し、この先の取り組み方について考え直すことができる。
8回目	中間発表でいただいた企業様のフィードバックを行い、改めて取り組みを再開する。
9回目	課題に対してリサーチし、報告書、プレゼンテーション資料を作成する。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	最終プレゼンテーションに向けて、練習、資料の見直しを行うことができる。
15回目	最終プレゼンテーション：企業様から取り組みに対する評価をいただく。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は「発表内容」で行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコル I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Manor protocol I	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60	開講区分	
学科	エアライン科				4	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコル、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコルを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコル」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。 ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコル検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。 							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション: 授業の目的、進め方等を理解できる。マナー・プロトコル検定3級の検定概要が理解できる マナーとは何か: 慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコルを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目		マナーの歴史と意味①: 日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ちについて説明できるようになる
3回目		マナーの歴史と意味②: アジアのマナーについて説明できるようになる 確認テスト①: 序章・一章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 国際人としてのプロトコル①: プロトコルの原則、具体的な席次例が説明できるようになる
4回目		国際人としてのプロトコル②: 社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナー、挨拶・握手と紹介のマナーについて説明できるようになる
5回目		国際人としてのプロトコル③: 外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる 国旗掲揚ワークで掲揚方法を体感することにより、正しい国旗掲揚ができるようになる
6回目		確認テスト②: 二章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①: 第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、敬語の種類と変換について説明できるようになる
7回目		社会人に必要なマナー②: 敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるようになる 言葉遣いワークで正しい言葉遣いを徹底的に習得することにより、就職活動や社会人生活で適切な言葉が活用できるようになる
8回目		社会人に必要なマナー③: 和装・洋装のマナーについて説明できるようになる
9回目		社会人に必要なマナー④: 喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方について説明できるようになる 祝儀袋・不祝儀袋ワークで表書きを練習することにより、正しく表書きできるようになる
10回目		社会人に必要なマナー⑤: 手紙のマナーについて説明できるようになる 手紙作成ワークで書き方を練習することにより、正しく手紙が書けるようになる
11回目		確認テスト③: 三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ビジネスシーンのマナー①: ビジスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方について説明できるようになる 名刺交換ワークで名刺交換を練習することにより、正しく名刺交換できるようになる
12回目		ビジネスシーンのマナー②: 電話応対のマナー、トラブル対応、来客応対のマナーについて説明できるようになる 電話応対・来客応対ワークで応対練習をすることにより、好印象な接客応対ができるようになる
13回目		ビジネスシーンのマナー③: ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
14回目		★前期試験: 1～12回目の授業を振り返り、試験を行う。自身の強み・弱みを認識する
15回目		前期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 確認テスト④: 四章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 総合の振り返りおよび質疑応答をすることで、さらに自信を持ってマナーを実践できるようになる

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は「筆記試験点数」とする。
------	--

受講生へのメッセージ	
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】	
マナー & プロトコルの基礎知識	

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキング I) Walking & Posture I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃から〇脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことにより〇脚が改善される。一般社団法人CS [®] にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。							
【授業の学習内容】							
「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。							
【到達目標】							
人前にでた際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目		正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目		
4回目		姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
5回目		
6回目		動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけかわて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
7回目		
8回目		途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目		
10回目		動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。 スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
11回目		
12回目		
13回目		夏季休暇明け、試験日対策として総復習を行い、苦手な点を再度練習しできるようにする。
14回目		前期試験日
15回目		フィードバックを行い、試験でできていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。そして前期の総復習ならびに前期終えての感想、反省点など後期の目標を改めて落とし込み後期への意識を高めることができるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・入退室時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか プラスα ・姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか 50%(筆記試験50%)
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
教科書は適時、配布 持ち物:スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物		

授業シラバス

科目名 (英)	マーケティングセールス (マーケティング)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Marketing	授業 形態	講義・演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員_ 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
<p>企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に付け、企画立案の基礎能力をつける。</p>							
【到達目標】							
<p>サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て、提案できるようになる。</p>							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		【オリエンテーション】 企画立案から企画書作成、プレゼンテーションまでの流れと概要を理解する
2回目		【マーケティング①】 課題を構成する要素を分析し、定義を明確にできるようになる
3回目		【マーケティング②】 分解要素をリサーチし、課題を再定義できるようになる
4回目		【マーケティング】 ホテル、エアライン、インバウンド観光業界の動向やトレンドを調査し、ポジショニングできるようになる
5回目		【コンセプト】 ミッションとコアアイデアを立案できるようになる
6回目		【ブレインストーミング①】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
7回目		【ブレインストーミング②】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
8回目		【ブレインストーミング③】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる
9回目		【ブレインストーミング④】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる <演習実施>
10回目		【企画立案】 アイデアの実現性を検討し、プロジェクトへ昇華できるようになる
11回目		【プレゼン資料の作成】 プレゼン資料の効果的な構成を理解し、土台を作れるようになる
12回目		【プレゼン資料の作成】 効果的なプレゼン資料が作成できるようになる
13回目		【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習①とフィードバック <演習実施>
14回目		【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習②
15回目		【振り返り】 半年間の振り返り

評価基準	<p>A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価（不合格）とする。</p>
評価方法	<p>出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・演習課題の完成度 100%</p>
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】	
<p>パワーポイントのスライド、模造紙、付箋紙、カラーペン</p>	

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン就職対策 I Airline Employment Measures I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員・実務者経歴】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
就職活動に必要な自己分析、企業研究、履歴書/エントリーシートの書き方、面接/筆記対策などを講義、演習を通して身に付けていく。							
【到達目標】							
まずは自分の言葉で自分自身について説明できるようになる。 火曜3限の「エアライン実務」とも連携し、就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動できるレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れを説明。授業に向けての抱負、エアライン就職メイク講座を通して、目指す姿をイメージする。
2回目		(自己分析①) 面接やエントリーシートで自分を存分に表現するために自分自身を振り返る。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
3回目		(自己分析②) 自分自身の長所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
4回目		(自己分析③) 自分自身の短所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
5回目		(企業研究①) エアライン業界における企業研究のコツを説明し、企業研究のイメージをつかむ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
6回目		(企業研究②) 企業研究を通して各企業の特徴を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
7回目		(模擬試験) 1～6回目の授業内容を反映した試験(筆記試験/面接試験)を実施し、今後の課題を認識・改善につなげることができる。
8回目		(エントリーシートの書き方①) 書き方のポイント・表現力を学ぶ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
9回目		(エントリーシートの書き方②) 自己分析を活かして自己PRを書くことができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
10回目		(エントリーシートの書き方③) 企業研究を活かして志望動機を書くことができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
11回目		(面接対策①) 面接の流れ、基礎対策を説明。入室から退室までの一連の流れを確認し、イメージをつかむ。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
12回目		(面接対策②) 模擬面接にて自己PRを伝えることができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
13回目		(面接対策③) 模擬面接にて志望動機を伝えることができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
14回目		(前期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
15回目		(総復習) 初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。 前期全体を通しての質疑応答を行い、自信を持って後期授業に臨むことができるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使つての授業。 ・適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。 ・各授業終了前10分間は英語のみで授業を実施する。 		

授業シラバス

科目名 (英)	就職対策 (エアライン就職対策Ⅱ) Airline Employment Measures Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
					2	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。						
【授業の学習内容】						
就職活動に必要な自己分析、履歴書/エントリーシートの書き方、面接/筆記対策などを講義、演習を通して身に付けていく。						
【到達目標】						
木曜3限の「おもてなしセルフスタイリングⅡ」とも連携し、エアライン業界で求められるマナーを習得、就職活動にて企業様の前で実践できるレベルになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れを説明。後期授業に向けての抱負、エアライン就職メイク講座を通して、就職活動への意識を高める。
2回目		(自己分析) 面接やエントリーシートで自分を存分に表現するために自分自身を振り返る。 (エントリーシートの書き方) 書き方のポイント・表現力を学ぶ。
3回目		(自己分析/他己分析) 自分自身の長所・短所を自身の言葉で説明することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
4回目		(面接対策) 面接の流れ、基礎対策を説明。入室から退室までの一連の流れを確認し、イメージをつかむ。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
5回目		(面接①-1) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
6回目		(面接①-2) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
7回目		(模擬試験) 実際の採用試験を想定した筆記試験/面接試験を実施し、今後の課題を認識・改善につなげることができる。
8回目		(面接対策) 英語面接の基本対策を説明。 (面接②-1) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
9回目		(面接②-2) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
10回目		(面接③-1) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
11回目		(面接③-2) 模擬面接を実施し、改善につなげることができる。また受講者同士でアドバイスをを行い、気づきの感度を高める。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
12回目		(面接対策) ビデオ撮影し、自身の姿を振り返り、改善につなげることができる。 (エントリーシートの書き方) 前回の内容をフィードバックし、改善につなげることができる。
13回目		(後期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
14回目		(試験解説) 初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。 (筆記対策) SPI/時事問題に焦点をおき、就職活動への準備を整える。
15回目		(総復習) 就職活動全体を通しての質疑応答を行い、自信を持って就職活動に臨むことができるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
------	---

受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

- ・パワーポイントを使っの授業。
- ・適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。
- ・各授業終了前10分間は英語のみで授業を実施する。

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEIC I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	TOEIC I						
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経歴】							
子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』『アルク』など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。							
【授業の学習内容】							
TOEICスコアUPにつながる中学レベルの基本文法の習得とTOEICらしい英語表現(単語や熟語など)の解説を中心にしますが、ビジネスで用いる英語の中でどのようにTOEIC知識が役立つかの話もしたいと考えています。基本的な授業の流れは以下の通りです。							
テキスト問題文の文法ポイント解説→日常会話の中での使われ方の話→音読→時間があれば「銀のフレーズ」の一部解説							
【到達目標】							
TOEICスコア600点突破を目指す。リスニング 320/495点、リーディング 280/495点。履歴書で注目されるTOEICスコアは800点からですが、平均スコアが580点ほどであることを考えると800の壁は高い。TOEIC600は、自分で英語を自由に学習できるようになるレベルを指します。この辺りから英語ができるようになってきたという自覚が生まれます。まずは、英語力アップの実感をこの前期で感じて欲しいと思います。ちなみに、600点を突破するためには、基礎がある日本人で、400時間程度の勉強時間が必要と言われていますので、皆さんの自宅学習のご協力なくして目標達成はあり得ません。皆さんは授業で伝えた情報を自宅でしっかりとインプットする努力をしてください。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		オリエンテーション。TOEICスコアの伸ばし方、単語の覚え方が理解ができる。テキスト p.11-14(HW: テキストp.11-14を復習)					
2回目		品詞の区別ができるようになる。テキスト p.20-25(HW:テキスト p.20-25をもう一度解く)					
3回目		品詞の区別ができるようになる。テキスト p.26-31(HW:テキスト p.26-31をもう一度解く)					
3回目		形容詞と副詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.32-35(HW:テキスト p.32-35をもう一度解く)					
4回目		副詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.36-39(HW:テキスト p.36-39をもう一度解く)					
5回目		進行形/受け身/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.40-43(HW:テキスト p.40-43をもう一度解く)					
6回目		現在完了/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.44-47(HW:テキスト p.44-47をもう一度解く)					
7回目		冠詞/代名詞/前置詞/品詞のそれぞれの働きを理解し、品詞同士の位置関係のパターンを覚える。テキスト p.48-51(HW:テキスト p.48-51をもう一度解く)					
8回目		主語と動詞の関係を理解し、主語や伝えたい内容に合わせた正しい動詞の変化パターンを覚える。テキスト p.62-67(HW:テキスト p.62-67をもう一度解く)					
9回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.74-77(HW:テキスト p.74-77をもう一度解く)					
10回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.82-89(HW:テキスト p.82-89をもう一度解く)					
11回目		場面や伝えたい内容に合わせた正しい時制パターンを覚える。テキスト p.90-93(HW:テキスト p.90-93をもう一度解く)					
12回目		修飾表現のパターン。テキスト p.94-99(HW:テキスト p.94-99をもう一度解く)					
13回目		品詞、時制の復習。テキスト p.28-29, 50-51, 82-83, 98-99/p.52-53					
14回目		前期試験					
15回目		前期試験の解説					
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・単語クイズ(銀のフレーズ) 10% × 2 ・前期試験 20%					
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
TOEIC(R) L&Rテスト 英文法 ゼロからスコアが稼げるドリル(授業、前期試験対策で使用) TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ(単語クイズ対策で使用)							

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅡ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	TOEICⅡ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。

【授業の学習内容】

文法力に特化した前期とは違い、後期ではリスニング・長文対策を行う。同時に各パートの傾向を掴み、本番でも緊張せずに臨めるだけの知識を身に付ける。また、毎週単語テストを実施して語彙力の増加にも力を入れる。

【到達目標】

12月のTOEIC試験で500点を狙える実力をつけられるようになる。
また、就職してから必要になるTOEICの勉強に備えて、自ら学ぶ方法を会得できるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		単語テスト / リスニング Part 1・2 : TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
2回目		単語テスト / リスニング Part3・4 : TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
3回目		単語テスト / リーディング Part6 ① : 前期に習ったことを踏まえて少し長い文章でも文意を捉えることができるようになる。
4回目		単語テスト / リーディング Part6 ②・Part7 ① : たくさんの文章に触れることで、様々な形式の文章に対応できるようになる。
5回目		単語テスト / リーディング Part7 ② : Part7の解き方を習得することで、長文に対する苦手意識を克服できるようになる。
6回目		単語テスト / リーディング Part7 ③ : 単語力に頼らなくても文意を捉えることができるようになる。
7回目		単語テスト / リーディング Part5 ① : 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
8回目		単語テスト / リーディング Part5 ② : 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
9回目		リスニング通しテスト : 実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
10回目		長文読解 : スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
11回目		長文読解 : スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
12回目		長文読解 : 前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
13回目		後期試験
14回目		後期試験返却
15回目		総復習 : これまでの総復習をすることでこれからの自分の課題を見つけることができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

公式TOEIC Listening&Reading 問題集4

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (英文法Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	English Grammar I	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	エアライン科				2	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
<p>子供英会話講師、英の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指準に従事。「Mr.Evine」として「Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル」「Mr.Evineのリスニング力向上ブック」「中学英文法を修了するドリル2」(すべてアルク)や学校専売品「英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ」(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>中学レベルの英文法を日常生活(ビジネス英語も同じ)でどのように用いるのか、実際に会話をする場面をイメージしながら解説をします。基本的な1回の授業の流れは、各Dayで扱う文法ポイントの解説→問題文の解説→演習(口頭英作文)→Jump-Start!のディクテーション(音声を書き取る)で行う。</p>						
【到達目標】						
<p>自分の意見を持ち、自分の英語力で話せるようになる。特に、英語の4技能「読む」「書く」「話す」「聞く」に直接的に影響する英語の語順の基本パターン(文型)、時制、助動詞、疑問詞を用いた疑問文の語順を会話の中で意識して伝わる範囲のミスで発音できることを目指す。</p>						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション。英文法をどう英会話力につなげるのか理解できる。(今回のHW: ES Day 15)
2回目		現在形と過去形の区別ができる。ES Day 15(今回のHW: ES Day 16)
3回目		未来の表現の区別ができる。ES Day 16(今回のHW: ES Day 17)
4回目		現在形、過去形と進行形の区別ができる。ES Day 17(今回のHW: ES Day 18)
5回目		過去形と現在完了の区別ができる。ES Day 18(今回のHW: ES Day 19&20)
6回目		時制の復習。助動詞の区別ができる①。ES Day 19&20(今回のHW: ES Day 21&22)
7回目		助動詞の区別ができる②。助動詞の復習。ES Day 21&22(今回のHW: ES Day 8)
8回目		不定詞を理解できる。ES Day 8(今回のHW: ES Day 10&11)
9回目		疑問文と否定文、疑問詞が理解できる①。ES Day 10&11(今回のHW: ES Day 12)
10回目		疑問詞が理解できる②。ES Day 12(今回のHW: ES Day 13&14)
11回目		受け身の表現と復習ができる。ES Day 13&14(今回のHW: ES Day 1)
12回目		文型①。ES Day 1(今回のHW: ES Day 2)
13回目		文型②。ES Day 2(今回のHW: 前期試験対策)
14回目		前期試験
15回目		前期試験の解説
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(取り組む姿勢だけではなく毎回のHW小テストを数値化します)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・確認クイズ×2(10%×2) ・前期試験 20%
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
<p>「英文法総合問題集ES～はじめて編～」 Jump-Start! 英語は39日であまくなる!</p>		

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (英文法Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	English Grammar Ⅱ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
<p>子供英会話講師、塾の英語教師、留学コーディネーターを経て、現在は社会人向けの「やりなおし英語JUKU」(三宮、肥後橋)と学生向けの「Evineの英語塾」(東灘)を主宰。幼児から社会人まで、あらゆる世代を対象とした「話すためのコア英文法」指導に従事。「Mr.Evine」として『Mr.Evineの中学英文法を修了するドリル』『Mr.Evineのリスニング力向上ブック』『中学英文法を修了するドリル2』(すべてアルク)や学校専売品『英文法総合問題集 ES(エス)シリーズ』(アルク)など著書多数。英語科教員向けセミナーにも多数登壇し、学校教育現場にも使える英語力の普及に努めている。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>TOEIC試験では単純な英語力だけでは高得点は望めません。まずは文法のおさらいをし、その後TOEICの各パートごとの傾向と対策を学ぶ。また、それらを踏まえた上で実際に問題をたくさん解き、より本番に近い形での演習を行う。</p>							
【到達目標】							
<p>12月に控えるTOEIC試験で500点を突破できるような知識を習得する。また、TOEICを通して中高の英文法を網羅し、あらゆる問題に対応できるようになる。</p>							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		品詞について①：形容詞の働きが理解できるようになる。
2回目		品詞について②：副詞の働きが理解できるようになる。
3回目		接続詞について①：名詞節の働きが理解できるようになる。
4回目		接続詞について②：副詞節の働きが理解できるようになる。
5回目		文法演習・解説①：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
6回目		文法演習・解説②：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
7回目		リスニング Part1・2 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
8回目		リスニング Part3・4 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
9回目		長文読解：スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
10回目		長文読解：スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
11回目		長文読解：前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
12回目		リスニング通しテスト：実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
13回目		定期試験
14回目		定期試験返却
15回目		後期学習内容の振り返りと総まとめ：これまでの総復習を行うことでこれから自分が取り組まないといけない課題が見えるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
講師持参資料	

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン英語 (エアライン英会話)	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Airline English	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

シェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

エアラインに関するリスニング、スピーキングをし、会話をしていく。ロールプレイやプレインストーミング、実際に現場で使える英語の練習をする。緊急や災害に関することも学ぶ。ペアやグループワークを通してエアライン用語に焦点を当て、会話能力の向上につなげる。試験はリスニングを含めた筆記やスピーキングも行う。

【到達目標】

エアライン現場や海外旅行で役立つ実際に使える英語を学ぶ。エアライン用語も学び現場でコミュニケーションをとることが出来る。

回数	授業計画・内容
1回目	空港と航空機に関する簡単な英会話を習得することができる
2回目	ゲートでのアナウンスを英語で行うことができる
3回目	出発と離陸に関する英会話を習得することができる
4回目	機内サービスに関する英会話を習得することができる
5回目	着陸に関する英会話を習得することができる
6回目	荷物・セキュリティに関する英会話を習得することができる
7回目	ミニクイズとロールプレイによる練習を行うことができる
8回目	空港・交通に関する英会話を習得することができる
9回目	空港、航空会社に関するアクティビティから、知識を確認することができる
10回目	緊急時と避難に関する英会話を習得することができる
11回目	自然災害に関する英会話を習得することができる
12回目	これまでの授業を復習し、知識を確認することができる
13回目	期末試験
14回目	英語模擬面接の練習をすることができる
15回目	英語模擬面接の練習をすることができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100とし、40% 計算を行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
	パワーポイントを使っでの授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン英語 (留学英語)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	English for Study abroad	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
学科	エアライン科					
【担当教員、実務者経験】						
シェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。						
【授業の学習内容】						
前半部は前期で扱いきれなかった内容や、留学に向けて必要な文法の知識を学ぶ。 中盤から後半にかけては、「童話」をグループ毎に分かれて英訳をしていき最後に全員の前で発表を行う。						
【到達目標】						
来年に控える留学に向けて、文法の基礎が頭に入っているだけでなくそれらを使って表現をすることができるようになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		接続詞①：接続詞の名詞節の使い方が分かるようになる。
2回目		接続詞②：副詞節の使い方が理解できるようになる。
3回目		関係代名詞：関係代名詞の働きを理解できるようになる。
4回目		前置詞：前置詞の役割を理解し、長い文章を作ることができるようになる。
5回目		物語作成「テーマ設定・班決め・役割決め」：これから始動する童話英文作りに向けての準備ができるようになる。
6回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
7回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
8回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
9回目		リスニング実践：ネイティブの英語スピーチを正確に聞き取り、自分の意見を述べられるようになる。
10回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
11回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
12回目		物語作成：童話を英訳することによって普段から使う日本語を英語にできるようになる。
13回目		定期試験
14回目		定期試験返却
15回目		物語発表：これまで作成してきた物語をしっかりと相手に伝えることで、自分の英語が通用すると実感できるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】
TOEICテスト 書き込みノート文法編

授業シラバス

科目名 (英)	資格取得講座 (サービス介助士) Nippon Carefit Education	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
お客様の立場に立って考え、行動するための「ホスピタリティ・マインド」の気づきと「ノーマライゼーション」の考え方を理解する。 お客様に安全で安心できる「介助」を提供できるよう、介助の知識を身につけます。							
【到達目標】							
7/18-19(土日)心齋橋での実技教習(2日間 9:30~17:00)に出席・受講し、サービス介助士資格の取得を目指す。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		ガイダンス・サービス介助士とは 超高齢社会である日本の現状を知り、サービス介助士の必要性を考える。 事前課題についての説明。(6/25までの提出予定→6/28学校から発送)
2回目		ホスピタリティ・ノーマライゼーション ホスピタリティマインドを理解する。 ノーマライゼーションを知り、必要性を理解する。
3回目		高齢者の理解と介助・ジェロントロジー 高齢者の身体的特徴などの理解を深め、機能低下に対する介助方法を知る。 ジェロントロジーの考え方を理解する。
4回目		障がい者への理解と介助① 車いす使用者の概要と介助方法について理解する。 聴覚障がい者の概要の理解と不便さを知り、コミュニケーション方法を学ぶ。
5回目		障がい者への理解と介助② 視覚障害の概要を理解し、不便さを知るとともに安全な誘導方法について学ぶ。 その他の障害について学ぶ。
6回目		障がい者の自立支援 実技教習について 身体障害者補助犬法の理解とユニバーサルデザインについて知る。 事前課題の復習と実技教習についての案内。
7~15回目		※7/18-19(土日)公益財団法人日本ケアフィット共育機構大阪事務所(心齋橋)での実技教習を受講します。(両日9:30~17:00) 詳細・持参物などは授業内で案内します。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 - 提出物(事前課題)及び準備物(受講票) 50% - 資格取得 50%
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
サービス介助士 教材一式		

授業シラバス

科目名 (英)	業界概論 (サービス接遇 I) Hospitality Proficiency I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習	総授業数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員・実務者経験】							
株式会社大丸に入社。人事部採用係とサービス企画推進部に所属しサービスの向上と人材教育に携わる。現在はフリーランスで研修講師として企業で新入社員研修、ビジネスマナー研修、接遇研修などを実施。学校では授業(接遇、ビジネスマナー、キャリア)、就職活動対策講座、資格対策講座を担当する。							
【授業の学習内容】							
この授業は社会人として必要なサービス接遇の実践的な知識を身につけ、即戦力として求められる人材になることを目指します。「サービスとは何か」「接遇とは何か」の理解を深め、ビジネス社会における円滑なコミュニケーションの築き方を学びます。また相手への「思いやりの心」を伝えるという接遇の技法を具体的に身につけて学びます。							
【到達目標】							
知識だけでなく体現することを目指す。接遇を通して良好なコミュニケーションを取ることができる、状況に応じて好印象を与えることができるようになる。サービス接遇検定2級資格取得をする。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(ガイダンス)授業の進め方、受け方と評価について説明する。サービス接遇検定の概要について確認する。人前で話すことを意識し自己紹介をする。
2回目		(サービススタッフの資質(1))明るさと誠実さとは何か。適切な判断と表現、身だしなみの重要性を理解できるようになる。身だしなみは次回以降整える。
3回目		(サービススタッフの資質(2))良識を持った素直な態度、協調性のある行動、清潔感についての理解を学び普段の行動に活かすことができる。
4回目		(ミニ筆記試験1回目)サービススタッフの資質の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
5回目		(専門知識(1))サービスの意義と機能、種類を学ぶ。グループワークを実施し内容を深めることができる。
6回目		(専門知識(2))流通の仕組み、商業と経済の用語を学び、グループワークを実施し用語確認する。
7回目		(ミニ筆記試験2回目)専門知識の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
8回目		(ミニ筆記試験3回目)一般知識を学習後、ミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
9回目		(対人技能(1))人間関係の重要性、顧客心理の理解、訪問のマナー、席次を学び日常生活に活かすことができる。
10回目		(対人技能(2))敬語、接遇用語を学ぶ。知識のみだけでなく敬語を話せるように実技を取り入れ、接客時に活用することができるようになる。
11回目		(ミニ筆記試験4回目)対人技能の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
12回目		(実務技能(1))苦情対応の基本、揭示文の書き方の基本を学ぶ、ビジネス文書の用語に慣れ、日常でも使うことができるようになる。
13回目		(実務技能(2))慶弔を学び、水引、上書きの種類と書き方を学び実技を取り入れる。
14回目		(ミニ筆記試験5回目)実務技能の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
15回目		(授業総括)前期を振り返り総復習する。感じ良く他者に伝えることを意識しながら発表し自己成長を確認することができる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ミニ筆記試験5回実施し、実技評価とする。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
「らくらく合格！ サービス接遇検定2級+準1級 集中レッスン&問題集」 著者：川村みどり 発行所：(株)ナツメ社		

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン実務 (エアライン実務 I) Practical airline I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
エアライン実務に関する基本的知識の習得並びに応用、またロールプレイングによりエアライン接遇の基本を体得する。ビデオ撮影・視聴やフィードバックにより自身の強みと改善点を理解する。							
【到達目標】							
エアライン実務に関する基本的知識を習得し、説明できるようになる。エアラインスタッフとして礎となるエアライン接遇の重要性を理解し、体現できるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション)エアライン実務を学ぶ意義を考え理解する。自身の強みを確認し、目指すCA,GS像をイメージする。
2回目		(エアラインで働く①)目指すCA,GS像を明確にする。(DVD視聴、話し合い、目標設定)
3回目		(エアラインで働く②)航空業界で働く意識を醸成する。
4回目		(エアライン接遇の基本①)エアライン接遇について学び、自身の印象管理の重要性を理解する。演習を通して美しい立ち居振る舞いを体得する。
5回目		(エアライン接遇の基本②)エアライン接遇について学ぶ。接客用語・言葉遣いを学び、誤った敬語や学生言葉を修正する。事例について話し合い、職業理解を深める。
6回目		(航空業界の歩みと現状)航空業界の変換と今後の展望を学ぶことで、どのようなCA,GSが求められているのかを理解する。
7回目		(社会人として働く)「報・連・相」を学び、演習をととして社会人としてのコミュニケーションの基本を体得する。
8回目		(エアライン実務①)CA/GSの基本業務を学ぶ。事例について話し合い、職業理解を深める。
9回目		(エアライン実務②)機内サービス・チェックインカウンター業務についての実践演習を行い、職業理解を深める。
10回目		(エアライン実務③)接客用語や話し方のポイントを学習し、演習を行うことで普段から使えるようになる。
11回目		(エアライン実務④)空港3レーダーコードを学ぶ。
12回目		(エアライン実務⑤)アナウンスの基本を学ぶ。演習をととして発声と話し方の重要性を学ぶ。事例について話し合い、職業理解を深める。
13回目		(グループディスカッション&発表)GDをととし、チームメンバーとしてのコミュニケーション力や主体性、また協調性を学ぶ。
14回目		(前期試験)実技試験・筆記試験
15回目		(前期授業の振り返り)前期の学習内容を復習し、後期の学びに繋げる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験・・・ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
必要に応じてレジュメ、参考資料配布	

授業シラバス

科目名 (英)	エアライン実務 (エアライン実務Ⅱ) Practical ailine Ⅱ	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。
現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。

【授業の学習内容】

「エアライン実務」に関する基本的知識の習得並びに応用、またロールプレイングによるエアライン接遇の5ポイントを体得する。更にはビデオ撮影・視聴を通して自身の強みと改善点を理解する。

【到達目標】

グランドスタッフ・キャビンアテンダントを始めとするエアライン業界の職業理解から自己理解を深め、自ら考え行動に移せるリーダーシップを有するエアラインスタッフ育成を目的とする。「エアライン実務」に関する基本的知識の習得はもとより、エアライン業界に従事する者としての礎となるエアライン接遇の理解並びに体現を目標とする。

回数	授業計画・内容
1回目	前期学習内容の定着度を確認、後期授業の目標並びに授業概要とルールの確認し、長期休みの成果発表を行うことができる。
2回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
3回目	クレーム対応の基本を学び、実践演習を通して基本対応を体得する。
4回目	エアライン業界用語を学び、GS/CA業務理解を深める。 機材によって異なる座席番号等、シートコンフィギュレーション全般を学ぶ。
5回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
6回目	GS/CA業務に欠くことのできない基本知識であるエアライン2レターコードの習得度を確認する。
7回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
8回目	アナウンス練習を通して、声のコミュニケーションを習得する。 接客業に必要な基本的な言葉遣いを、実践を通して復習する。
9回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
10回目	eチケットの見方、また時刻表に記載されている内容を理解する。 「日本の国益を守る」というミッションを持つC・I・Qの役割と基本知識を学ぶ。
11回目	接客用語、話し方をはじめ「接遇の5ポイント」を、カウンター業務ロールプレイングを通して体現できるようになる。 外国人旅客対応を始め多様な状況において、ホスピタリティを体現できるよう実践する。
12回目	後期試験に向け、授業内容のポイントを復習またロールプレイングを確実なものとする。
13回目	ロールプレイング到達度確認・筆記試験・レポート提出
14回目	試験内容の振り返りと後期授業内容の復習。
15回目	エアライン実務の講義を通して習得したスキルとマインドを整理すると同時に、就職活動に向けエアライン業界に求められる人材像を再確認する。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験・・・ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
必要に応じてレジュメ、参考資料配布	

授業シラバス

科目名 (英)	グランドハンドリング実務 (グランドハンドリング実務Ⅰ) Practical Airline I	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	90 6	開講区分	曜日/時限
【担当教員・実務者経験】							
2000年より事前研修社員として株式会社Kグランドサービスに入社しランプサービス部に所属。以後20年間同部署にて航空機誘導(マーシャリング)、搭載監督者(ロードマスター)の資格を取得後フライト作業の責任者として従事。現在は教育担当として新入社員の受入教育をはじめ、航空機DOOR資格のインストラクター等の職務を担っている。							
【授業の学習内容】							
グランドハンドリングの総合的な役割を身に付け、実習を通して理解と技術を習得し、就職後即戦力となる。							
【到達目標】							
航空業界に於ける必要最低限の知識の習得およびグランドハンドリングの目的、役割等を学ぶ事を目的とする。又、社会人として自立出来るように組織人としての在り方等を理解する。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		オリエンテーション・グランドハンドリングの役割と重要性・各業務の説明 今後の授業内容の説明・役割の理解と重要性の把握・各部署の役割を理解する					
2回目		安全について・グランドハンドリングの車両・GSEについて・航空用語と航空機について 安全・車両・GSE・航空用語・航空機の特徴を学び習得する					
3回目		空港内設備(ランプエリア)の紹介と説明・各業務見学および航空機見学 施設紹介と各部署・航空機の見学を通して空港で働く意識を向上する					
4回目		搭降載作業について① 搭降載に必要な知識を身に着け危険な場所や作業について理解を深める					
5回目		搭降載作業について② 各ULDの種類、危険物、タイダウン、指差呼称について学び知識を習得する					
6回目		旅客手荷物について 旅客手荷物の流れについて理解する(ソーティング)					
7回目		航空貨物について 航空貨物の流れを理解する(輸出入上屋)					
8回目		客室クリーニングについて① 客室クリーニングの必要性を理解する					
9回目		客室クリーニングについて② 客室クリーニング実践を通して理解を深める					
10回目		WEGHT & BALANCE業務について① WEGHT & BALANCEの作成について習得する					
11回目		WEGHT & BALANCE業務について② WEGHT & BALANCEの重要性について理解する					
12回目		空港内で走行する車両について・搭降載実務 関係法令に基づいた空港で走行する車両の理解と知識を習得する・搭降載見学					
13回目		空港内車両運転について①・搭降載実務 空港内車両運転における必要最低限の知識の習得する・搭降載実習					
14回目		空港内車両運転について②・搭降載実務 空港内における車両走行の制限および優先車両について理解する・搭降載実習					
15回目		前期のまとめ 前期教育内容を振り返り、理解度を確認する					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業内テストの点数						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	グランドハンドリング実務 (グランドハンドリング実務Ⅱ) Practical Airline II	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	90 6	開講区分	曜日/時限
【担当教員・実務者経験】							
2000年より事前研修社員として株式会社Kグランドサービスに入社しランプサービス部に所属。以後20年間同部署にて航空機誘導(マーシャリング)、搭載監督者(ロードマスター)の資格を取得後フライト作業の責任者として従事する。現在は教育担当として新入社員の受入教育をはじめ、航空機DOOR資格のインストラクター等の職務を担っている。							
【授業の学習内容】							
グランドハンドリングの総合的な役割を身に付け、実習を通して理解と技術を習得し、就職後即戦力となる。							
【到達目標】							
航空業界に於ける必要最低限の知識の習得およびグランドハンドリングの目的、役割等を学ぶ事を目的とする。又、社会人として自立出来るように組織人としての在り方等を理解する。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		空港内車両運転について③・搭降載実務 空港内における運転規則および標識について学び理解する・搭降載実習					
2回目		空港内車両運転について④ 空港内における車両事故事例と危険予知ディスカッション					
3回目		TT車 車両訓練① TT車の役割と使用前点検を理解し、走行実習を行い習得する					
4回目		搭降載実務訓練 搭降載実習					
5回目		TT車 車両訓練② 走行1(単体走行 前進/後退/旋回/停止)					
6回目		搭降載実務訓練 搭降載実習					
7回目		TT車 車両訓練③ 走行2(TT車とドーリー連結および牽引走行 Bドーリー)					
8回目		搭降載実務訓練 搭降載実習					
9回目		TT車 車両訓練④ 走行3(牽引走行 カート・Pドーリー)					
10回目		搭降載実務訓練 搭降載実習					
11回目		TT車 車両訓練⑤ 走行4(牽引走行 Pドーリー)					
12回目		搭降載実務訓練 搭降載実習					
13回目		TT車 車両訓練⑥ 走行5(牽引走行 Pドーリー連結)					
14回目		TT車 車両訓練⑦ 走行6(器材寄せ付け)					
15回目		後期のまとめ 後期教育内容を振り返り、理解度を確認する					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業内テストの点数						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	業界サービス (エアライン接客 I)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	
	OMOTENASHI Manners I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員・実務者経験】							
株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。 現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。							
【授業の学習内容】							
業界に関わらず社会人のマナーは必要である。 相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。							
【到達目標】							
今後学生という立場から社会人として様々な学びを身に付けていかなければならない。 この授業を通し、まずは就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に付け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動出来るレベルになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れ、社会人になるにあたってのマナーを説明。自己紹介を通して現在の自分の姿を確認する。
2回目		(第一印象) 第一印象の大切さを学ぶ。 (身だしなみ) 社会人として求められている身だしなみを学び、実際に身だしなみを整える。
3回目		(挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さを学ぶ。 (表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。表情管理方法を学び、普段の行動に活かすことができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付ける。(クッション言葉)
4回目		(立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いを習得する。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等)
5回目		(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の立ち居振る舞いを振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(肯定表現・敬語)
6回目		(コミュニケーション力) 自身のコミュニケーション力を知り、良いコミュニケーションが与える影響を知る。 (話し方・聴き方) 感じの良い話し方、聴き方を実践を交えて肌で感じることができる。
7回目		(報告書作成) 報告書の書き方を習得し、実際に記入する。
8回目		(ビジネス文書) ビジネス文書の基礎を学ぶ。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(ビジネスにふさわしい言葉)
9回目		(来客対応の基本) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を習得することができる。
10回目		(言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に付けることができる。(ビジネスにふさわしい言葉・話し言葉・書き言葉)
11回目		(電話対応の基本) 社会人として正しい電話対応の仕方を習得することができる。
12回目		(電話対応の基本) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。
13回目		(総復習) 前期で習得した内容を網羅したロールプレイを実施。
14回目		(前期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
15回目		(試験解説) 試験の解説後、1年間の振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 ロールプレイング試験50点 + 筆記試験50点 の合計100とし、40% 計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
パワーポイントを使っての授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。		

授業シラバス

科目名 (英)	業界サービス (エアライン接客Ⅱ) OMOTENASHI Manners Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	エアライン科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

株式会社Kスカイに入社、旅客サービス業務に従事。
現在は人事・採用担当として、新入社員教育や採用面接、他企業でのマナー講座を実施。

【授業の学習内容】

業界に関わらず社会人のマナーは必要である。
相手に好印象を与え、信頼につなげられる社会人マナーを習得する。

【到達目標】

前期に引き続き、まずは就職活動にて企業様の前でも恥ずかしくない必要最低限のマナーを身に着け、そしてその先にある入社後に自信を持って行動できるレベルになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の流れ説明。社会人になるにあたってのマナーを復習。自己紹介を通して前期からの成長を実感することができる。
2回目		(第一印象) 第一印象の大切さについて復習。 (身だしなみ) 社会人として求められる身だしなみを復習、改善につなげることができる。 (挨拶の効果) 社会人としての挨拶の大切さについて復習。
3回目		(表情管理) 表情が相手に与える影響を実感する。ペアで相互チェックを行う。 (立ち居振る舞い) 品格のある立ち居振る舞いについて復習。(お辞儀/物の受け渡し/立ち方/座り方/歩き方等) (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
4回目		(立ち居振る舞い) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
5回目		(来客対応の基本) 社会人として正しい来客対応、訪問の仕方を習得することができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
6回目		(来客対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
7回目		(報告書作成) 報告書の書き方を復習し、実際に記入する。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる(話し言葉・書き言葉)
8回目		(封筒) 封筒の書き方の基礎を学び、実際に記入する。 (FAX) FAXを送る際のマナーを学ぶ。
9回目		(電話対応) 社会人として正しい電話対応の仕方を復習する。 (言葉遣い) 社会人として正しい言葉遣いを身に着けることができる(電話対応での言葉遣い)
10回目		(電話対応) 電話に出る正しい姿勢・声の出し方を習得することができる。 (言葉遣い) 社会人として正しい言葉遣いを身に着けることができる(電話対応での言葉遣い)
11回目		(電話対応) ビデオ撮影し、自身の対応を振り返り、改善につなげることができる。 (言葉遣い) 社会人としての正しい言葉遣いを身に着けることができる。(復習テスト)
12回目		(テスト前総復習) 後期で習得した内容を網羅したロールプレイ、言葉遣いの総復習を行う。
13回目		(後期試験) ロールプレイング試験、筆記試験を行う。
14回目		(試験解説) 初回からの振り返りを実施し、自分の成長を確認することができる。
15回目		(総復習) 1年間を通しての質疑応答を行い、自分の行動に自信を持つことができるようになる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験 ロールプレイング試験50点+筆記試験50点の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		
パワーポイントを使っの授業。 適宜資料の配布やビデオ撮影・確認を行う。		

授業シラバス

科目名 (英)	セルフスタイリング (MCTトレーニング I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	MC training I	授業 形態	演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	エアライン科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
関西一円のホテルやゲストハウス等にて婚禮司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。 CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事をこなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当した。							
【授業の学習内容】							
相手に『伝える』というのはとても大切です。表情であったり声や活舌、相手の耳にどのように届くのかを考え話す、相手が理解できるように話す、良い印象を残す話し方をする等、様々な観点からみて、話す・伝えるを学ぶ。							
【到達目標】							
声を出すという基本を学び、人に伝える大切さ、言葉の意味を知り自ら積極的に綺麗な発音と共に挨拶や自己紹介、自信を持って発言ができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		自分を知る事からスタート (自身の口の開け方や声の出し方声のトーン等、癖を知ることができる)
2回目		腹式呼吸を覚えよう (腹式で声を出す事に意識できるようになる)
3回目		声の出し方と五十音 (発声の大切さと1語1語の重要性を理解することができる)
4回目		単語と息の吐く場所 (単語や文章において、ブレスのタイミングを知ることができる)
5回目		滑舌トレーニング (早口言葉で滑舌を鍛える)
6回目		アクセント・イントネーション・ペース・ポーズ (話し方のルールを知ろう)
7回目		自己紹介のプロになる
8回目		短文で慣れる (短い単語や文章を上京に応じて話してみる)
9回目		物語を読むpart 1 (子供向けの絵本を感情込めて読めるようになる)
10回目		物語を読むpart 2 (子供向けの絵本を感情込めて読めるようになる)
11回目		シチュエーション別原稿の読み方part1 (明るく・真面目に・暗く・モノマネ等)
12回目		シチュエーション別原稿の読み方part2 (グループ練習)
13回目		自己紹介+自己PR (面接の場において自己紹介・自己PRをどのようにするかを考えることができる)
14回目		自己紹介+自己PR (面接の場において自己紹介・自己PRをどのようにするかを実践できるようになる)
15回目		まとめ

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・自己紹介+PRを試験とし、その完成度とする
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
講師配布プリント	

授業シラバス

科目名 (英)	セルフスタイリング (ヘルスビューティー I) Health Beauty I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
				2		曜日/時限	
【担当教員・実務者経験】							
2013年 スタジオパキラ入社 ブライダルヘアメイク アシスタントを開始 2015年 フリーランスとして活躍。 ブライダルヘアメイクを中心に、企業広告、ファッションショー、sns用ヘアメイク、婚活メイクセミナーなどを行っています。							
【授業の学習内容】							
基本の就活メイクについて 業界別メイクの特徴を知る ①栄養素の働きについて学習する ② ライフスタイルにあった健康的な食生活について学習する。							
【到達目標】							
自分の顔を知り 自分に似合った印象の良いメイクができるようになること 自分の食生活および食行動の問題点を改善し、健康的かつ美しいbodyとなるようライフスタイルに合わせた実現可能な食事を選択出来るようになる。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		基本の就活メイク① 基礎知識、スキンケア～ベース、アイブロウ					
2回目		前回テスト(ベース～アイブロウまで) 基本の就活メイク② アイメイク、チーク、リップ					
3回目		基本の就活メイクテスト(フルメイク) 印象の良い顔のつくり方 就活用 ヘアスタイル シニヨン					
4回目		前回テスト(印象の良い顔) 自分に合う色の見つけ方					
5回目		前回テスト(自分に合う色で印象の良いメイク、就活用ヘア) 業界別就活メイク① エアライン(エアライン別メイクの特徴) ホテル、観光					
6回目		前回テスト 業界別就活メイク② エアライン(エアライン別メイクの特徴) ホテル、観光					
7回目		前回テスト 就活用ヘアスタイル、総復習					
8回目		総合テスト、評価 面接前の身だしなみチェック(メイク崩れ対処法など)					
9回目		栄養素の働きについて コンビニで購入した食事を確認しながら、栄養素を学び、日常に活かすことができる。					
10回目		栄養素の働きについて コンビニで購入した食事を確認しながら、栄養素を学び、日常に活かすことができる。					
11回目		中食の選択方法					
12回目		自分の食事の問題点を抽出し改善目標をたてる 1か月ごとの授業において、個人の食事を振り返りながら食生活を見つめなおすことができる。					
13回目		①食事の問題点が改善されたか振り返る 1回目の授業の知識を忘れていないかを確認することができる。					
14回目		②食事の問題点が改善されているか振り返る 前期の授業を振り返りながら、後期への新たな目標を立てる。					
15回目		授業の振り返り、まとめ					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・「総合テスト」の点数を換算する						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	業界研究 (企業研究Ⅱ) Business Reserch II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

【授業の学習内容】

企業様より取り組み課題をいただき、自発的に調査、リサーチを行ったうえでチームワーク力を高めながらプランニング・プレゼンテーションを行う。

【到達目標】

企業様からの課題をしっかりと理解した上で、グループで課題に取り組み、プレゼンテーションを行うことができる。

回数	授業計画・内容
1回目	企業プロジェクトの目的、心構えについて学ぶ。事前準備として、自己紹介を含むグループ分けを行うことができる。
2回目	企業様から課題発表。課題に対して取り組まなければならない事項を理解することができる。チーム発表。
3回目	プレゼンテーション発表までのスケジュールを組むことができる。 取り組み方について考えることができる。
4回目	課題に対してリサーチすることができる①
5回目	課題に対してリサーチすることができる②
6回目	課題に対してリサーチすることができる③
7回目	中間発表：企業様に対し、課題に対する取り組みの進捗状況を報告し、この先の取り組み方について考え直すことができる。
8回目	中間発表でいただいた企業様のフィードバックを行い、改めて取り組みを再開する。
9回目	課題に対してリサーチし、報告書、プレゼンテーション資料を作成する。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	最終プレゼンテーションに向けて、練習、資料の見直しを行うことができる。
15回目	最終プレゼンテーション：企業様から取り組みに対する評価をいただく。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は「発表内容」で行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	